

松田町第 7 次総合計画

基本構想（骨子）

第 1 部

基本構想・基本計画

第 1 編 総論

第1章 総合計画策定の趣旨

1. 策定の意義

総合計画は、その地域全体の総合的・効率的な行財政運営を図るための基本となるものであり、まちの将来像と、計画の実現に向けた施策及び施策の進め方を示すものです。

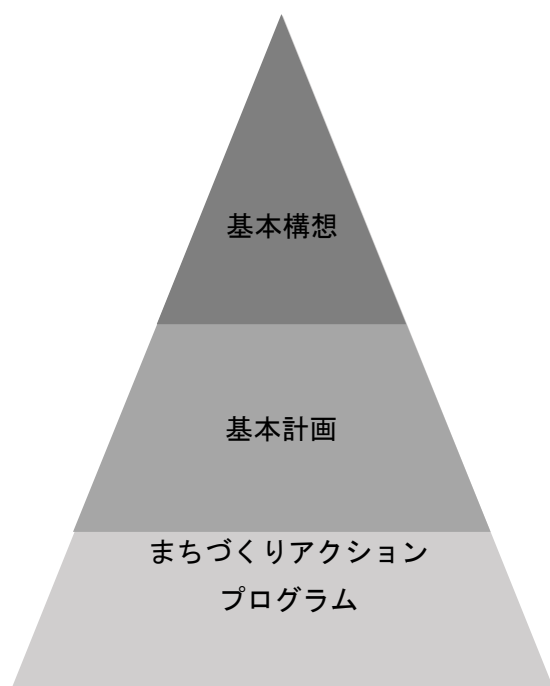
松田町では、2019年3月に、2026年を目標年次とした「松田町第6次総合計画」を策定し、基本構想にて「いのち“育み” 未来へ“ツナグ” 進化“つづける” 故郷」を8年間で目指す将来像として掲げ、町民の皆さまとともにまちづくりを進めて参りました。

その間、少子高齢化・人口減少の進行やインフレや原材料価格の上昇に伴う物価高騰、自然災害の頻発・激甚化など、本町を取り巻く社会情勢や経済情勢はめまぐるしく変化しており、町民の価値観も多様化しています。こうした急激な変化に対応し、持続可能で自立した基礎自治体としてのまちづくりの指針を示すため、2027年度から8年間の計画となる「松田町第7次総合計画」を策定します。



写真

2. 計画の構成と期間



(1) 基本構想

松田町のまちづくりの最高理念であり、町の目指すべき将来像を明らかにするとともに、その実現のための基本的な方向と基本目標を示すもの

(2) 基本計画

基本構想で示した将来像や基本目標を実現するための施策を分野別に示すもの

(3) まちづくりアクションプログラム(前期)

基本計画で示した施策を達成するための具体的な事業を示すもの

	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
基本構想								
	→							
基本計画								
	→							
					→			
					後期計画にて見直し			
まちづくりアクションプログラム								
	→				→			
	前期計画（4年間）				後期計画（4年間）			

第2章 松田町を取り巻く状況

1. 松田町の概況

(1) 位置・地勢

- ・北は丹沢大山国定公園・西丹沢系、南は酒匂川流域の豊穡な足柄平野が広がるその中心に位置する、37.75 平方キロメートルの町です。
- ・周辺を秦野市、足柄上郡大井町、山北町、開成町と接しています。
- ・東京都心部から約 70 km 圏の距離にあり、東名高速道路や国道 246 号などの広域幹線道路、小田急小田原線と JR 東海御殿場線の鉄道路線を有するなど、交通アクセスの利便性に優れています。



松田町の位置を示した地図

(2) 歴史

江戸	全域を小田原大久保氏が領有。 参勤交代制度が実施された。
明治	1871 年 廃藩置県に伴い小田原県（のちの足柄県）に移管。 最後の藩主大久保忠良氏が、松田町出身の家臣に、大名行列の際に行っていた奴振りの型を受け継ぐ。 1875 年 寄地区の 7 か村が合併して寄村になる。 寒田神社祭礼の神社行列にて奴振りを披露。明治終わりごろまで続く。 1876 年 足柄県が廃止され、足柄上地区が神奈川県に編入。 1880 年 足柄上郡の郡役所が松田惣領へ移り、松田惣領が郡の中心地となる。 1889 年 東海道線（現御殿場線）松田駅が開業。 松田惣領、松田庶子、神山村が合併して松田村が誕生。 1909 年 町政を施行して松田町となる。
大正	1923 年 関東大震災により壊滅的な被害を受ける。
昭和	1927 年 小田急線が開通し新松田駅が開業。 1955 年 松田町と寄村が合併し、新制松田町が誕生。 1971 年 奴振りが町無形文化財に指定。 1973 年 寄地区が「自然休養村」の指定を受ける。 1977 年 第 1 回寄若葉まつり開催 1978 年 第 1 回まつだ観光まつり開催。
平成	1989 年 町民憲章制定。 1997 年 まちづくり条例施行。 1999 年 第 1 回まつだ桜まつり開催。 2003 年 西平畑公園イルミネーション事業開始。 2007 年 台風 9 号が直撃し、十文字橋落橋。 2014 年 小学校の一部の学年でタブレット端末導入。
令和	2021 年 S D G s 未来都市に選定される。

二次元コードにて詳しく紹介されているホームページを掲載予定。

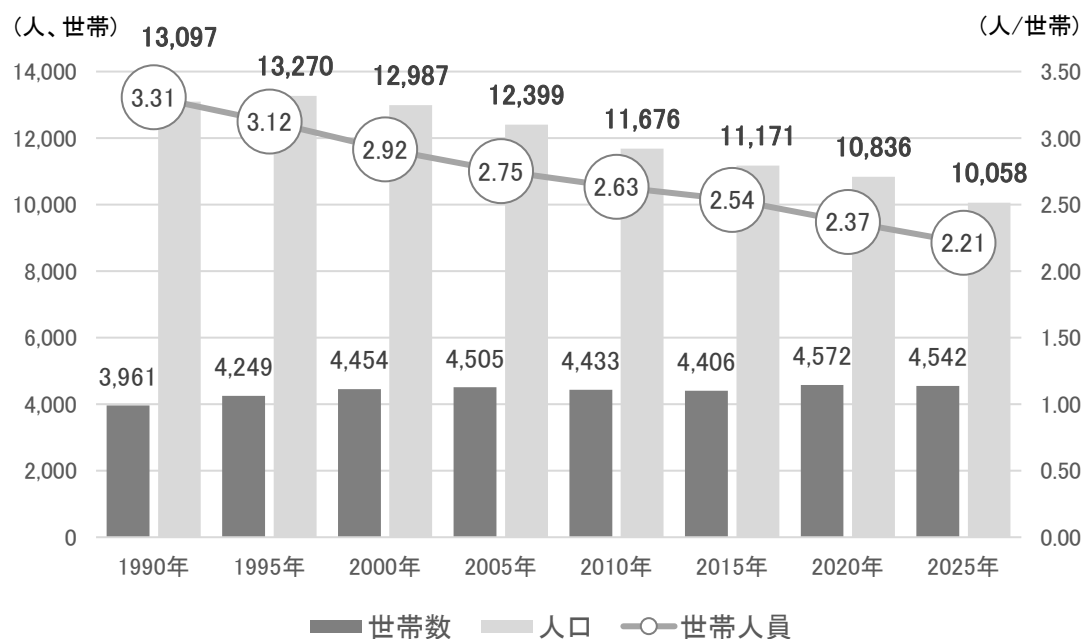
(<https://town.matsuda.kanagawa.jp/soshiki/1/gaiyou.html>)

(<https://matsuda-daimyo.com/why-matsuda-town/>)

(3) 人口・世帯等

①総人口・総世帯数

- ・国勢調査人口では、1995 年の 13,270 人をピークに減少しており、2025 年には 10,058 人となっています。
- ・世帯数は 2005 年に 4,505 世帯に達したもののその後は横ばいとなっています。このため、一世帯あたりの人口は 1990 年の 3.31 人から 2025 年には 2.21 人まで減少しており、核家族化、単身世帯や少人数世帯の増加がうかがえます。



人口・世帯の推移（国勢調査・1990～2025 年）

②年齢別人口

※令和 7 年度国勢調査結果の公表待ち

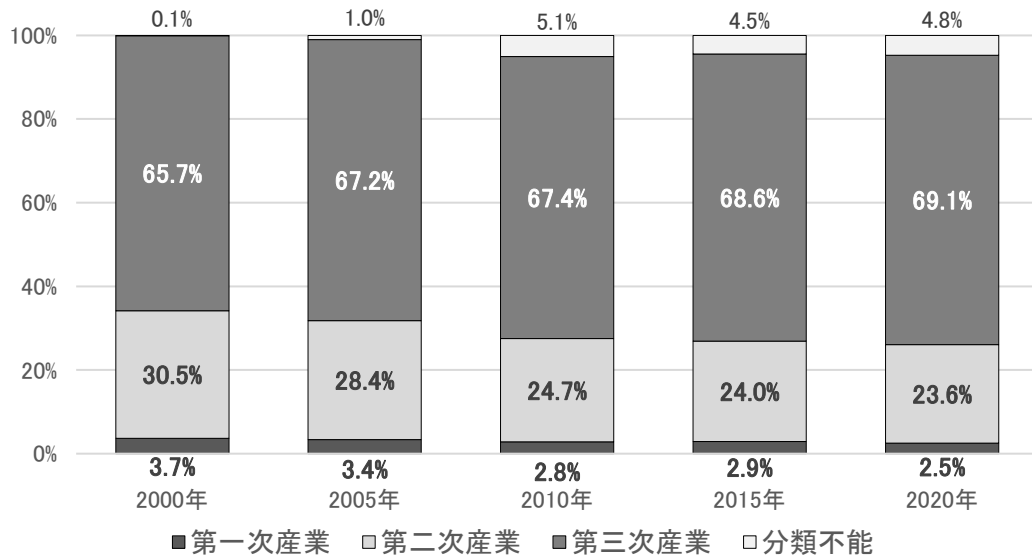
③地区別人口

※令和 7 年度国勢調査結果の公表待ち

(4) 産業

①産業別就業者数

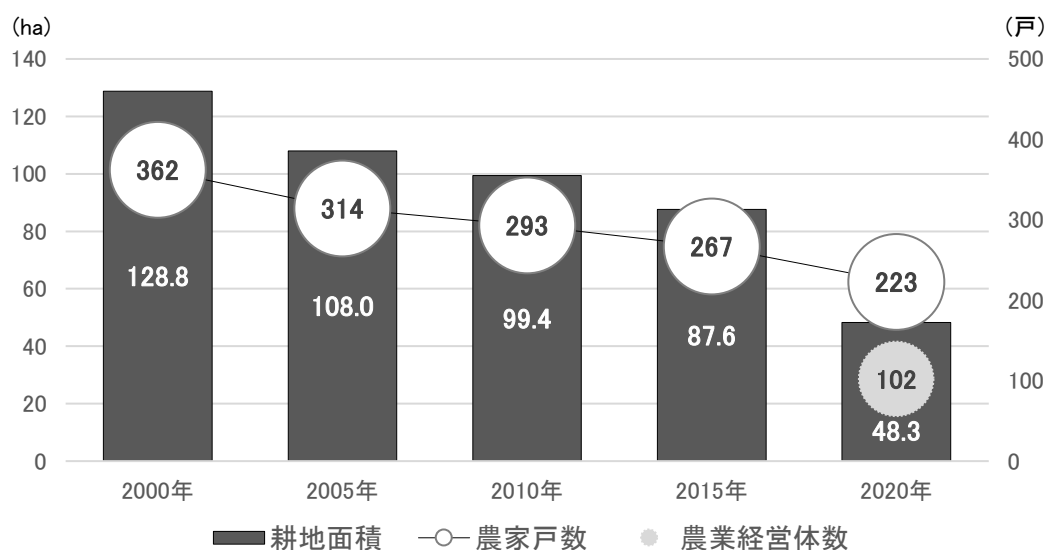
- ・国勢調査から松田町の産業別就業者数をみると、農林漁業等の第一次産業が減少する一方、サービス業等の第三次産業が増加する傾向が続いており、2020年には69.1%が第三次産業に従事しています。



産業別就業者割合の推移（国勢調査・2000～2020年）

②農業

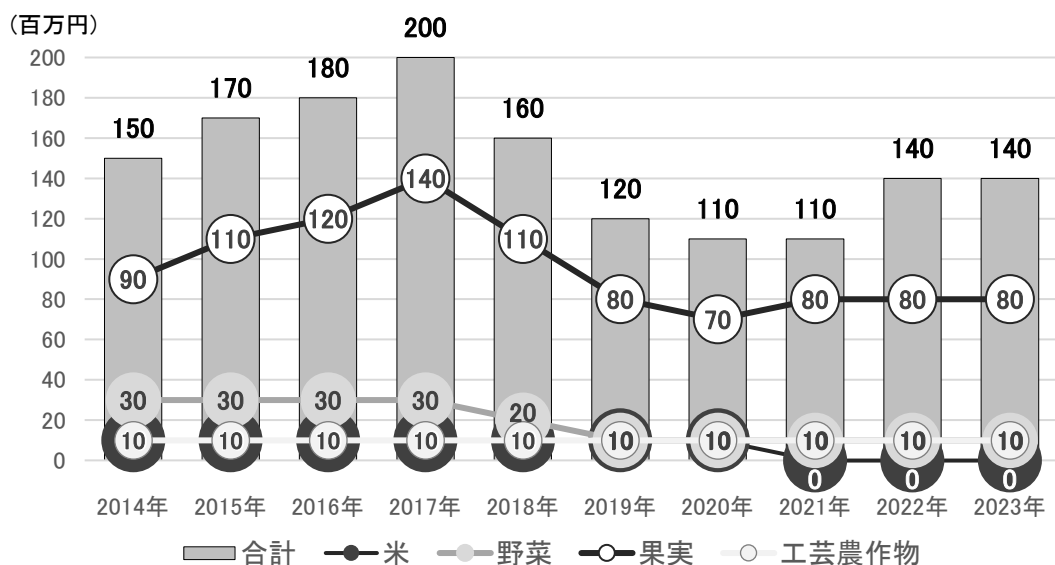
- ・農業の耕地面積、農家戸数ともに減少傾向にあり、2000年から2020年にかけて農家戸数は4割近く減少しています。



※2020年農林業センサスでは一定規模以上の生産活動を行う農林業経営体という単位で調査・集計を行っているため、この102の農業経営体による経営耕地総面積を耕地面積として計上しています。
 ※2020年の農家戸数は小規模（10ha以上30ha未満）で農業を営む世帯又は前年の農産物販売金額が年間15万円以上あった世帯を含みます。

耕地面積と農家戸数の推移（農林業センサス・2000～2020年）

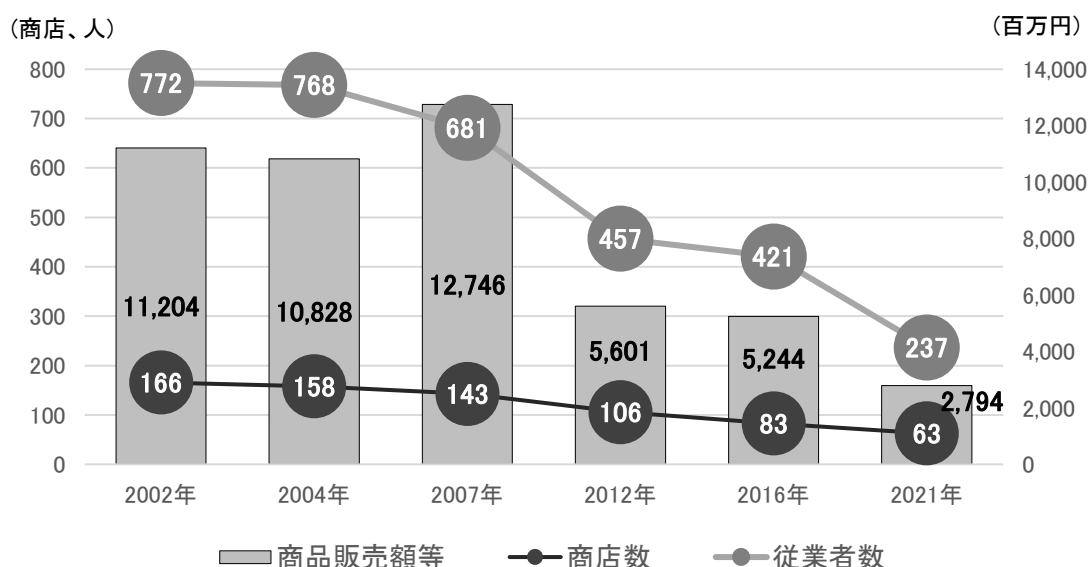
- ・農業産出額をみると、2014年から2017年にかけて、主に果実の伸びにより増加していましたが、農業従事者の高齢化や担い手不足、収益性が低いことによる離農など様々な要因により、2018年以降、農業産出額は大きく減少しましたが、2023年以降はほぼ横ばいとなっています。



農業産出額（推計）の推移（農林水産省 市町村別農業産出額・2014～2023年）

③商業

- ・2007年から2012年にかけて商店数、従業者数、商品販売額等ともに大きく減少しています。これは統計調査が商業統計から経済センサスに変わり、調査方法等の違いから結果として集計対象等が異なっていることも影響していると考えられます。
- ・2012年以降も減少傾向は続いており、2016年から2021年にかけても大きく減少しています。これは、コロナ禍が影響していると考えられます。



商品販売額等の推移（商業統計・2002～2007年、経済センサス・2012～2021年）

④工業

- ・2020年までは製造品出荷額等が増加していましたが、2021年には事業所数、従業者数とあわせて減少しました。これはコロナ禍が影響していると考えられます。
- ・調査が変わった2022年以降はいったん増加した後、ほぼ横ばいとなっています。



製造品出荷額等の推移（工業統計・2016～2021年、経済構造実態調査・2022～2024年）

(5) 土地利用・都市基盤等

①土地利用

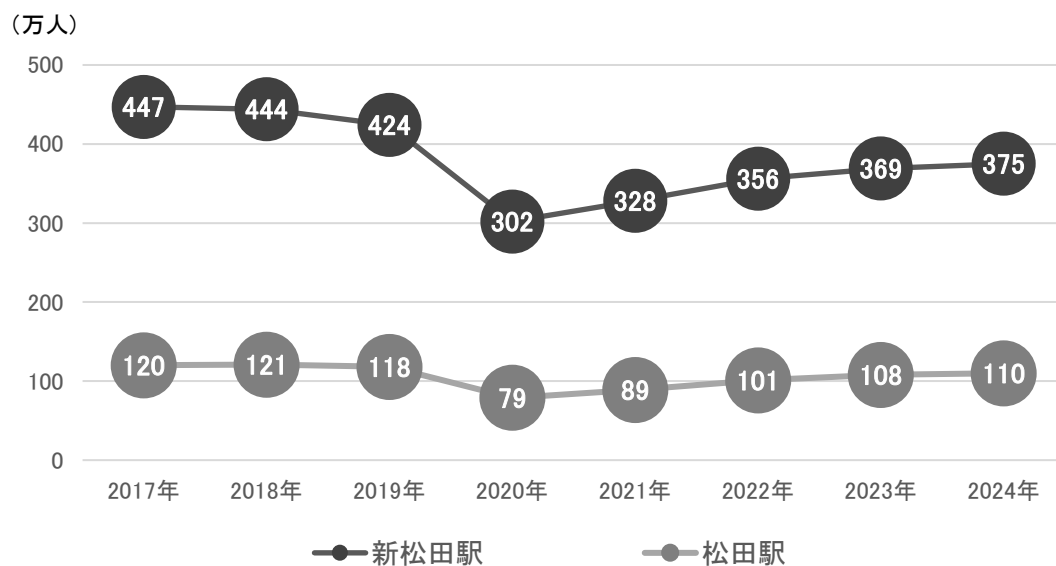
- ・松田町の土地利用は、課税地の約 56%が山林であり、次いで約 20%が田畑、約 13%が宅地となっています。
- ・2015 年以降、田畑は減少傾向が続いている一方で、宅地は増加傾向となっています。

	田	畑	山林	原野	宅地	その他	非課税地	総面積
2015年	0.138	2.233	6.354	0.264	1.447	1.141	26.174	37.75
2016年	0.137	2.230	6.337	0.254	1.434	1.141	26.217	37.75
2017年	0.133	2.224	6.344	0.254	1.438	1.142	26.215	37.75
2018年	0.128	2.218	6.393	0.255	1.443	1.098	26.215	37.75
2019年	0.127	2.211	6.397	0.255	1.423	1.126	26.211	37.75
2020年	0.127	2.211	6.397	0.255	1.423	1.126	26.211	37.75
2021年	0.126	2.202	6.379	0.258	1.439	1.123	26.223	37.75
2022年	0.125	2.210	6.379	0.258	1.441	1.120	26.217	37.75
2023年	0.124	2.206	6.569	0.318	1.448	0.975	26.110	37.75
2024年	0.122	2.200	6.568	0.318	1.452	0.979	26.111	37.75
2025年	0.119	2.197	6.569	0.318	1.454	0.980	26.113	37.75

地目別土地利用の推移（固定資産概要調書・2015～2025 年） ※前年比で太字は増加、網掛けは減少

②交通

- ・松田町には小田急小田原線新松田駅と JR 御殿場線松田駅があります。
- ・年間の鉄道乗車人員は、2020 年度にコロナ禍の影響を受け大きく落ち込み、その後、回復傾向にありますが、コロナ禍以前の水準に戻っていない状況です。



鉄道乗車人員の推移（神奈川県勢要覧・2017～2024 年）

(6) 将来人口の見通し



2. 社会情勢

(1) 少子高齢化と人口減少の進行

- ・日本の総人口は長期の減少過程に入っており、令和 38 年（2056 年）には 1 億人を下回る 9,965 万人になると推計されています。
- ・高齢化率（総人口に占める 65 歳以上人口の割合）は増加が続く一方、少子化の影響により生産年齢人口（15 歳～64 歳）の割合は減少し、令和 7 年における高齢化率は 29.4%（3,622 万人）、生産年齢人口の割合は 59.7%（7,353 万人）になると推計されています。
- ・松田町においては、2024 年に消滅可能性都市から脱却したものの、2026 年に人口が 1 万人を割り込み、自治会等の人員不足が続くなどの課題が生じているほか、地域によっては限界集落（過疎化などで人口の 50%以上が 65 歳以上の高齢者になり社会的共同生活の維持が困難になる集落の状態）となることも懸念されています。

(2) 災害の頻発化・激甚化

- ・近年、気候変動等の影響により、大雨をはじめとした気象災害が頻発しています。
- ・発生確率が年々高まっている首都直下型地震や南海トラフ地震等の巨大地震、富士山の噴火等への対策が喫緊の課題となっています。
- ・松田町においては、南海トラフ地震防災対策推進地域、富士山火山避難基本計画の第 5・6 次避難エリアに指定されていることから、町民の命を守るため、日頃からの備えと一人一人の意識の強化が求められています。

(3) デジタル化の加速

- ・少子高齢化と人口減少の進行に伴う労働不足や、コロナ禍を経たことによる生活様式の変化、ワークライフバランスの実現に向けた働き方改革などを背景に、デジタル技術の活用による生産性の向上や業務効率化が推し進められています。
- ・国が定める自治体DX推進計画においては、「行政サービスについて、デジタル技術やデータを活用して、住民の利便性を向上させること」、「業務効率化を図り、職員の負担軽減とあわせて、人的資源を行政サービスの更なる向上に繋げること」、「DX化推進にあたっては、住民とその意義を共有しながら進めていくこと」が求められています。
- ・松田町においては、サービスのデジタル化を進めるとともに、従来までの対応も行うことで、多様な町民のニーズに幅広く応える必要があります。

（４）公共施設の老朽化

- ・日本の社会資本は高度経済成長期に集中的に整備されたため、今後 20 年間で建設後 50 年を経過する施設の割合が加速度的に高くなる見込みです。
- ・改修や大規模修繕の時期を一斉に迎えることによる費用負担の増大などが懸念されています。
- ・松田町においては、将来の人口動向や人口構成、町民ニーズの変化を踏まえた公共施設の最適化や、社会情勢の変化に対応した、効率的・効果的な公共施設等の整備及び管理運営が求められます。

（５）価値観やライフスタイルの多様化

- ・社会の成熟に伴い、人々の価値観やライフスタイルが多様化する中、家族のあり方、結婚や性に対する考え方、人と人の関係性が大きく変化したことで、行政だけでは対応しきれないほどの町民のニーズの多様化や地域で互いに助け合うという意識の希薄化を招いています。
- ・松田町においては、年齢、性別、国籍、文化・習慣、障害の有無などに関わらず、誰もが個人として尊重され、地域でお互いに支え合えながら活躍できる環境が求められます。

（６）GX（グリーン・トランスフォーメーション）の推進

- ・地球温暖化による環境問題は、世界的な危機として認識されており、地球の表面温度の大幅な上昇や海面温度の上昇が進んでいます。
- ・近年の国際的なカーボンニュートラルへの潮流等を背景に、国は「グリーン成長戦略」に基づいて経済・社会・産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させ、エネルギーの安定供給・経済成長・排出削減の同時成長を目指す「GX（グリーン・トランスフォーメーション）」を進めています。
- ・松田町においては、「松田町ゼロカーボンシティ宣言」を表明しており、この宣言のもと、環境に優しいまちづくりとともに、豊かな自然の活用や官民連携により、環境への負荷を抑えつつ、町民の暮らしやすさ・生産性を高める、持続可能で効果的な取組の検討が求められています。

第3章 町民の期待（町民アンケート調査結果等）

計画策定にあたって、まちづくりに対する町民の声を計画に反映していくため、「松田町第7次総合計画策定のための町民アンケート調査」（2025年11～12月実施、以下「町民アンケート」と略す）、職員アンケート、中学生アンケート、中学生ワークショップ、まちづくり団体アンケート、タウンミーティングを実施しました。

それぞれの概要や主な結果は以下の通りです。

1. 町民アンケート

（1）実施概要

今回実施した町民アンケートでは、まちづくりの主役である町民の皆さんの率直な声をお聞きするため、16歳以上の町民の方から無作為に3,000人を抽出して、郵送配布にて実施しました。

今回の調査では、回答者が回答しやすい方法を選択できるようにし、回収率を向上させるため、調査方法を郵送とWebの2パターンとしました。

調査対象	町内在住の16歳以上の方
調査時期	令和7年11月～12月
調査方法	郵送による配布、郵送回収もしくはWeb回答。
主な調査項目	回答者自身のことについて 松田町の定住に関する考えについて 松田町のまちづくりについて これからの松田町について 松田町の行財政について まちづくりへの提言
配布数	3,000票
有効回収表	1,334票（郵送：885票 Web回答：449票）
回収率	44.5%

回収率の信頼度について

調査時点の松田町の人口は「10,051」人に対し、回答の信頼度95%を得るために必要なサンプル数は「332」です。

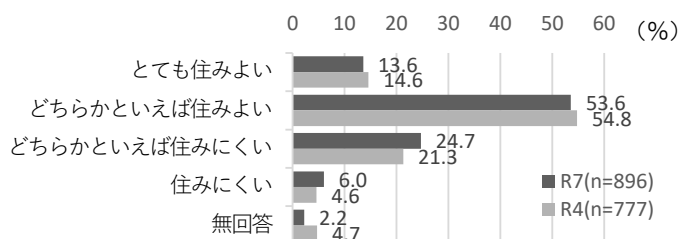
今回の調査では「1,334」表の回答を得ているため、信頼度を満たしています。

(2) まちの住みよさ

7割近い人が松田町は〈住みよい〉と回答しており、豊かな自然環境に恵まれていることや、交通の便の良さを住みよい理由として挙げています。

一方で、住みにくいと回答した人からは、商業施設の不足や日常の買い物の不便さを指摘する声が多くなっています。

■住みよさ



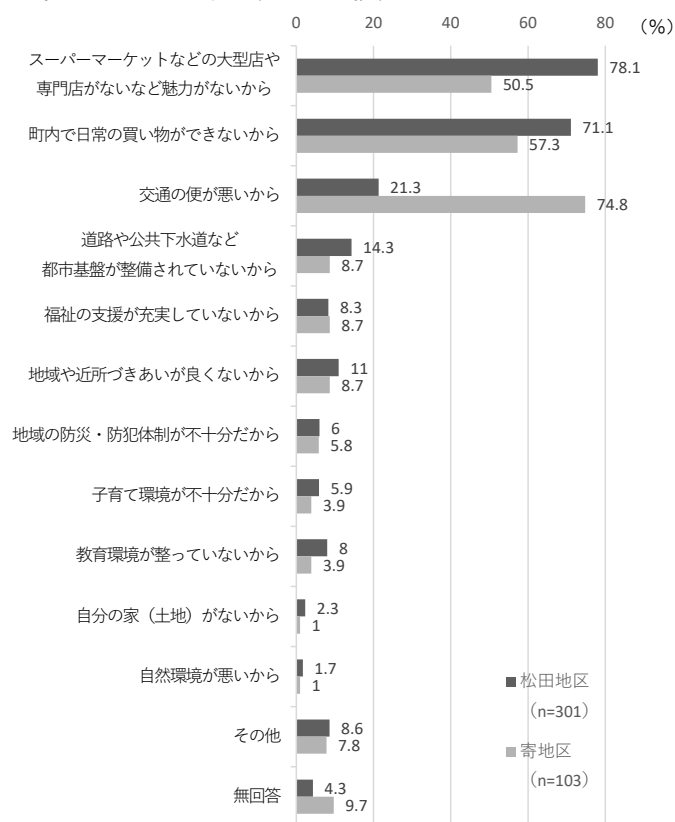
【松田地区】

松田地区（松田惣領・松田庶子・神山）では、70%が〈住みよい〉と回答しており、理由としては、「豊かな自然環境に恵まれているから」や「交通が便利だから」を挙げています。

【寄地区】

寄地区では、50%が〈住みにくい〉と回答しています。〈住みよい〉理由として「豊かな自然環境に恵まれているから」や「地域や近所付き合いが良好だから」を挙げている一方、〈住みにくい〉理由として「交通の便が悪いから」や「町内で日常の買い物ができないから」を挙げています。

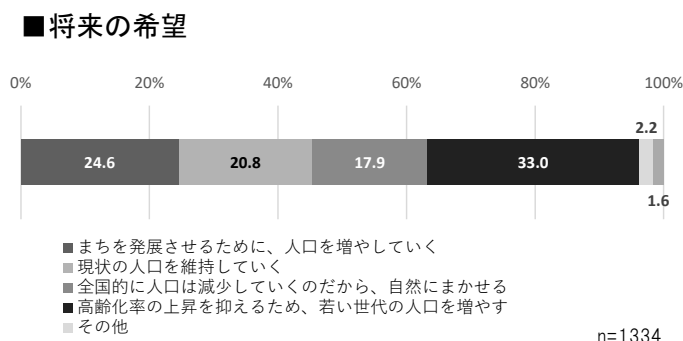
■住みにくい理由〈地区比較〉



(3) 将来の人口

将来人口の希望については、「高齢化率の上昇を抑えるため、若い世代の人口を増やす」が最も多く 33.0%、「まちを発展させるために、人口を増やしていく」が次に多く 24.6%と、半数以上が増加すべきと回答しています。

また、人口を増加させるのに効果的な取組として最も多いのは「買い物の利便性の向上」、次いで「働く場所の確保」となっているが、人口を増加させるべきと回答した人は、「住宅・宅地の整備」と回答した人の割合が多いのが特徴です。



【松田地区】

松田地区では、将来人口の展望として「高齢化率の上昇を抑えるため、若い世代の人口を増やす」が 32.7%、次いで「まちを発展させるために、人口を増やしていく」が 25.7%となっています。

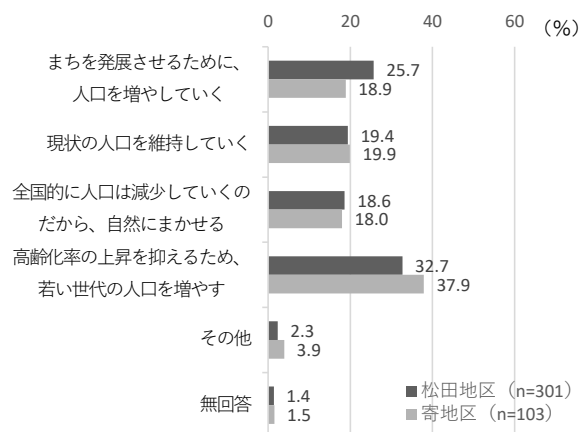
効果的な人口増加策としては「買い物の利便性の向上」が 77.41%で最も多くなっています。

【寄地区】

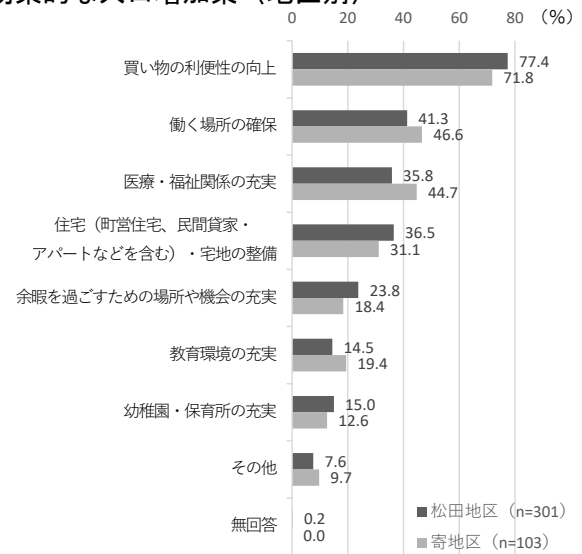
寄地区の将来人口の希望は「高齢化率の上昇を抑えるため、若い世代の人口を増やす」が松田地区より 5.2 ポイント上回る 37.9%となっている一方、次いで多いのは「現状の人口を維持していく」で 19.9%となっています。

効果的な人口増加策では松田地区と同様「買い物の利便性をよくする」が最も多い一方、次いで多い「働く場所の確保」の 46.6%、「医療・福祉関係の充実」の 44.7%は松田地区を上回っています。

■将来の希望〈地区別〉



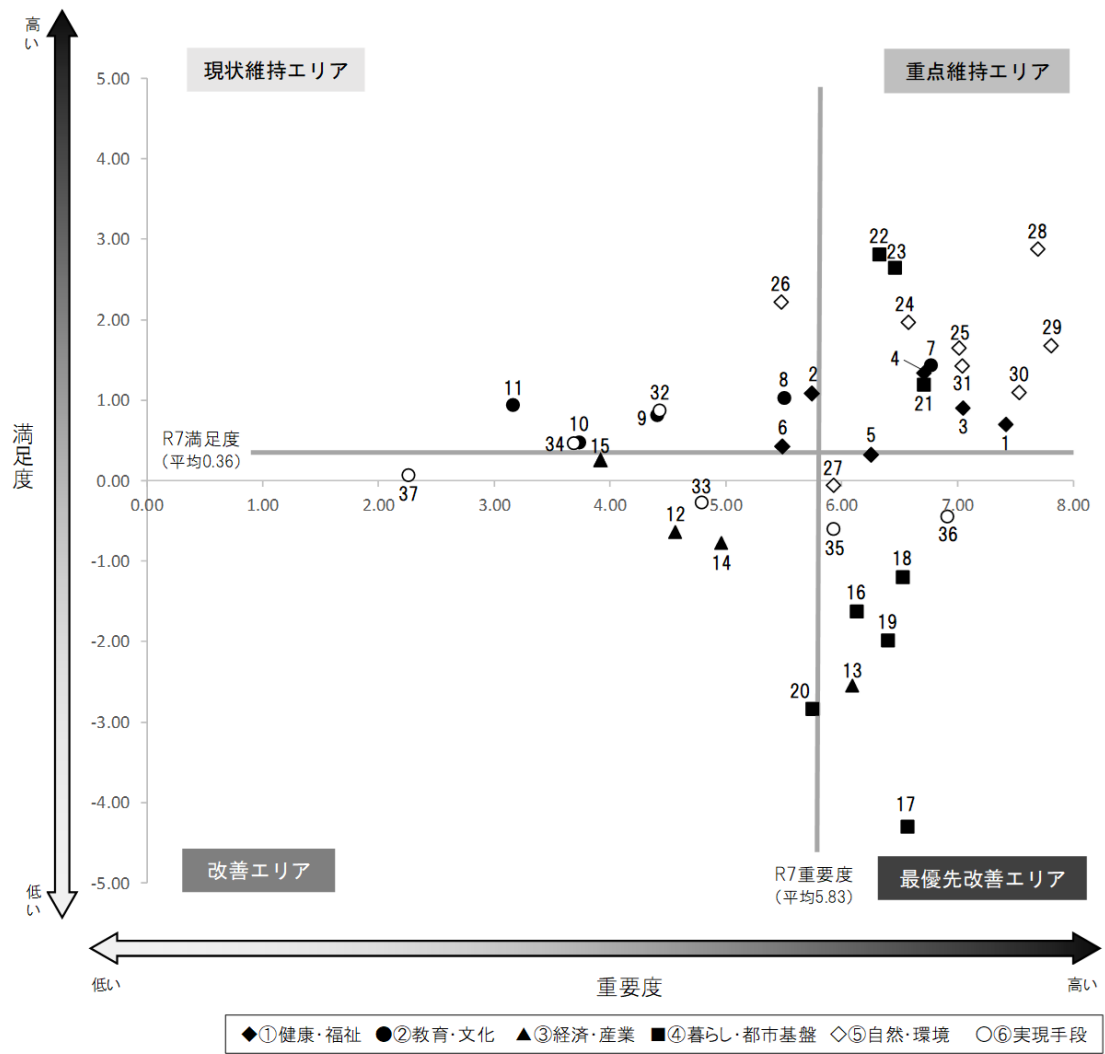
■効果的な人口増加策〈地区別〉



（４）取組の評価

現在のまちづくりの6つの柱のうち、〈教育・文化〉〈自然・環境〉は比較的満足度が高いものの、〈暮らし・基盤〉では改善が求められる項目が多くなっています。

特に、〈経済・産業〉の「13. 商工業の振興」、〈暮らし・基盤〉の「17. 新松田駅・松田駅周辺の整備」や「19. 公共交通（バス・タクシー等）の充実」については最優先の改善が求められています。



領域ごとの項目は以下の通りです。

分野	No.	項目	R 7
健康・福祉	1	健康づくりと地域の医療の充実	重点維持エリア
	2	地域福祉(地域での支え合い)の充実	現状維持エリア
	3	社会保障(介護・健康保険等)の充実	重点維持エリア
	4	児童福祉(子育て支援等)の充実	重点維持エリア
	5	高齢者福祉の充実	最優先改善エリア
	6	障害者福祉の充実	現状維持エリア
教育・文化	7	幼児教育と学校教育の充実	重点維持エリア
	8	青少年の健全育成	現状維持エリア
	9	生涯学習の充実	現状維持エリア
	10	地域文化の創造	現状維持エリア
	11	スポーツ・レクリエーションの充実	現状維持エリア
経済・産業	12	農林業の振興	改善エリア
	13	商工業の振興	最優先改善エリア
	14	観光の振興	改善エリア
	15	消費者トラブル等の未然防止	改善エリア
暮らし・都市基盤	16	土地利用の推進(都市化と自然環境保護の両立)	最優先改善エリア
	17	新松田駅・松田駅周辺の整備	最優先改善エリア
	18	骨格的道路網(国道・県道・幹線町道)と生活道路の整備	最優先改善エリア
	19	公共交通(バス・タクシー等)の充実	最優先改善エリア
	20	住宅整備・空き家対策等の充実	改善エリア
	21	ごみ処理対策の推進	重点維持エリア
	22	水道事業の推進	重点維持エリア
	23	下水道・生活排水施設整備	重点維持エリア
自然・環境	24	自然環境の保全・活用	重点維持エリア
	25	河川・砂防・治山の整備	重点維持エリア
	26	景観の保全・形成	現状維持エリア
	27	公園・緑地の整備・維持管理	最優先改善エリア
	28	消防・救急の充実	重点維持エリア
	29	防災対策の充実	重点維持エリア
	30	防犯対策の充実	重点維持エリア
	31	交通安全対策の充実	重点維持エリア
実現手段	32	地域コミュニティ活動と自治の育成	現状維持エリア
	33	オール松田で協働のまちづくり(町民・議会・行政の連携)	改善エリア
	34	人権・男女共同参画・女性活躍の推進	現状維持エリア
	35	効果的・効率的な行政経営	最優先改善エリア
	36	健全な財政運営	最優先改善エリア
	37	広域行政・国際交流(インバウンド・人材育成等)の推進	改善エリア

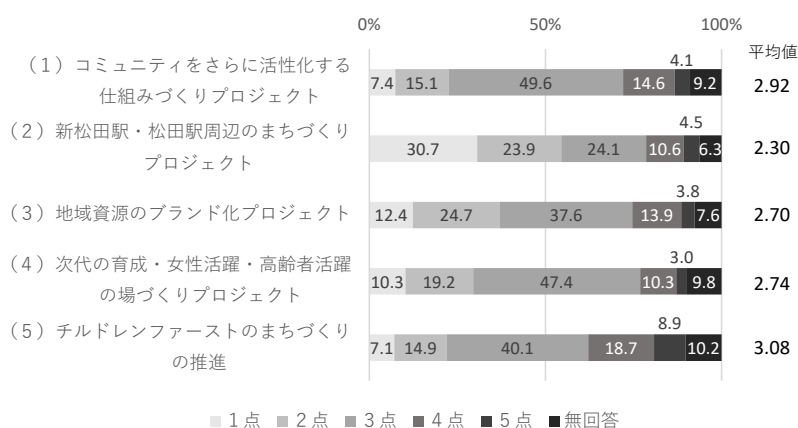
領域	説明
最優先改善エリア	重要性が高いものの、満足度が低い領域。最優先で改善が必要。
改善エリア	重要性が低く、満足度も低い領域。必要性が低いので最優先ではないものの、何らかの改善が必要。
重点維持エリア	重要性が高く、満足度も高い領域。現状は問題ないが、満足度が低下すると総合満足度も低下してしまうため満足度の水準を保つように注意が必要。
現状維持エリア	重要性が低い一方、満足度が高い領域。満足度は高いので現状を維持すれば十分。

まちづくり戦略プロジェクトの評価をみると、「チルドレンファーストのまちづくりの推進」については一定の評価が得られていることから、取組の効果を実感できる状態になりつつあるとともに、更なる期待が寄せられていると考えられます。

【松田地区】

松田地区では全体の結果と同様に「チルドレンファーストのまちづくりの推進」への評価が最も高く、次いで「コミュニティをさらに活性化する仕組みづくりプロジェクト」となっている一方、「新松田駅・松田駅周辺のまちづくりプロジェクト」が最も低い評価となっています。

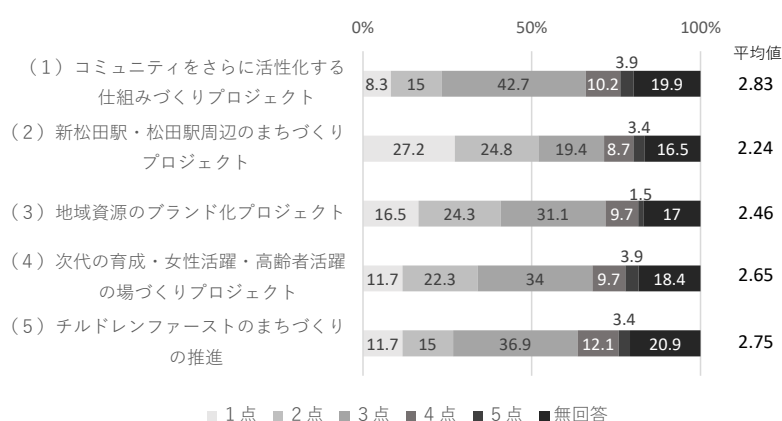
■まちづくり戦略プロジェクトの評価（松田地区）



【寄地区】

寄地区では「コミュニティをさらに活性化する仕組みづくりプロジェクト」への評価が最も高く、次いで「チルドレンファーストのまちづくりの推進」となっており、松田地区同様に「新松田駅・松田駅周辺のまちづくりプロジェクト」が最も低い評価となっています。全体的に寄地区の方が平均値が低い結果となりました。

■まちづくり戦略プロジェクトの評価（寄地区）



【戦略プロジェクト】とは

まちの将来像の実現に向けて、部門横断的に取り組むべきまちづくり戦略をプロジェクトとし、2026 年度までの4年間で重点的に取り組む事業を位置づけたものです。

〈主な取組事業〉

- ◎情報共有（広報・広聴活動）の推進・充実（実現手段）
- ◎新松田駅北口周辺整備の促進（暮らし・基盤）
- ◎新たな観光資源の創造・発掘・活用（経済・産業）
- ◎子育て支援事業（健康・福祉）
- ◎子育て世帯支援事業（健康・福祉）

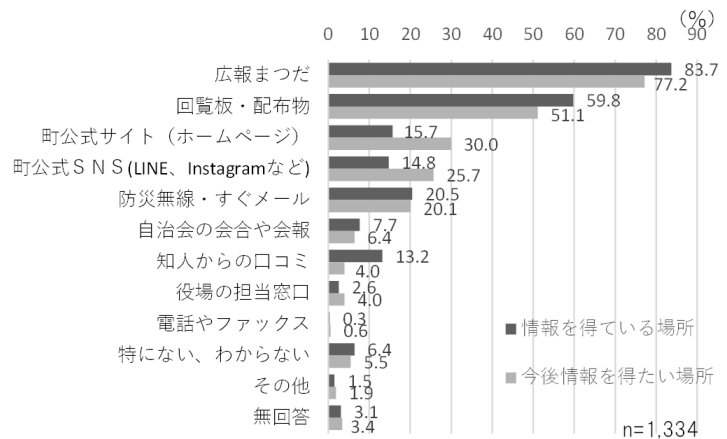
等

（５）これからのまちづくり

情報発信について、現在情報を得ている場所、今後情報を得たい場所はともに「広報まつだ」が最も多く、次いで「回覧板・配布物」となっています。

一方で、「町公式サイト（ホームページ）」、「町公式SNS（LINE、Instagramなど）」について、今後情報を得たい場所の数値が現在情報を得ている場所の数値を上回っていることから、電子媒体における情報発信が求められています。

■情報の得方について



「町政のことは議員や町、専門家にまかせたい」と回答した人が最も多く、次いで「パブリックコメントにより意見を述べたい」となっています。また、年代が上がるほど懇談会や対話集会に参加したいと回答した人が増える傾向にあります。

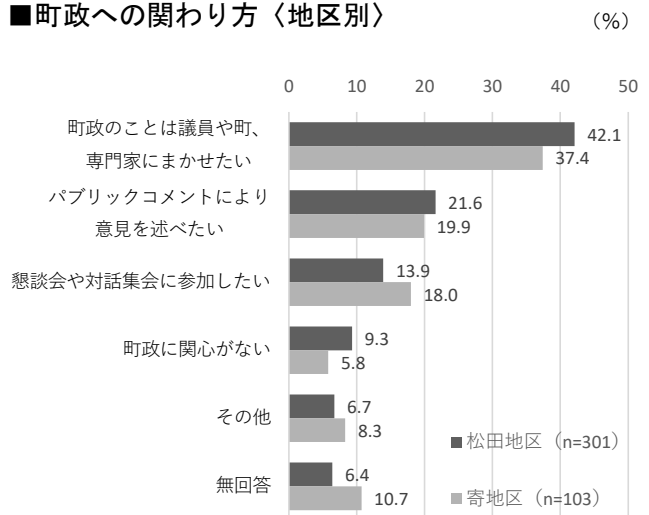
【松田地区】

町政への関わり方について、「町政のことは議員や町、専門家にまかせたい」、「町政に関心がない」という意見が半数を占めており、町民の町政に対する関心が低い状態にあることがわかります。

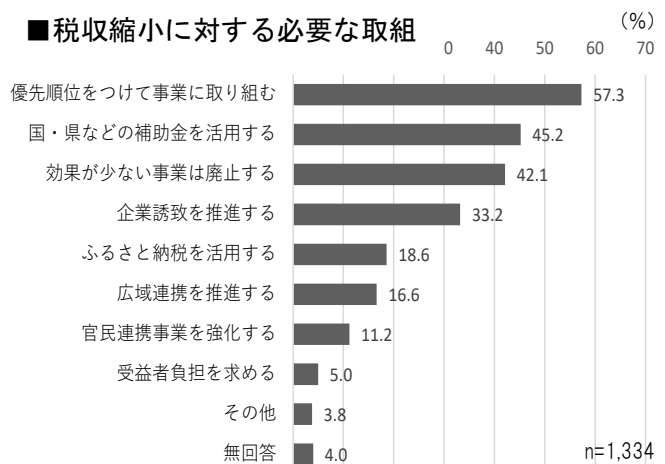
【寄地区】

松田町と比較して、「懇談会や対話集会に参加したい」と回答した人が多く、対面での町民参加が望まれている傾向にあります。

■町政への関わり方〈地区別〉



■税収縮小に対する必要な取組



税収縮小に対する必要な取組としては、「優先順位をつけて事業に取り組む」、「効果が少ない事業は廃止する」などの絞った事業実施が求められているほか、「国・県などの補助金を活用する」、「企業誘致を推進する」、「ふるさと納税を活用する」など、不足する税収を補う視点も求められています。

2. 中学生アンケート・ワークショップ

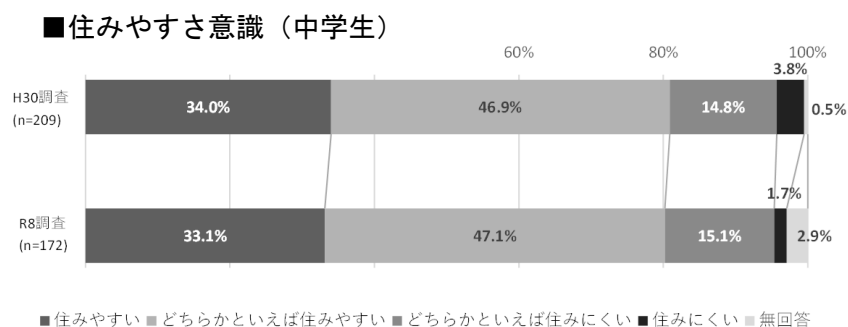
(1) アンケート結果

今回の総合計画策定では、次代を担う中学生の意見をお聞きするため、松田町立松田中学校の全校生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。

調査対象	町立松田中学校全校生徒
調査時期	令和8年4月8日～4月27日
調査方法	URL及び二次元コードの送付によるWeb回答
主な調査項目	回答者自身のことについて 今の松田町について 将来の松田町について
対象者数	172名
有効回収表	167名
回収率	97.1%

(住みやすさ意識)

松田町の住みよさについて、町民アンケートを上回る8割が住みやすいと回答した一方、前回調査からは0.7ポイント減少しています。



(まちの自慢・課題)

■松田町の自慢（自由記入）

1位	自然がある (自然が豊か、桜や景色が綺麗)	…99件
2位	交通が便利 (駅が2つある、都心に出やすい)	…26件
3位	観光地・祭りがある (様々な祭りがあり、人が多く来る)	…24件

■松田町の課題（自由記入）

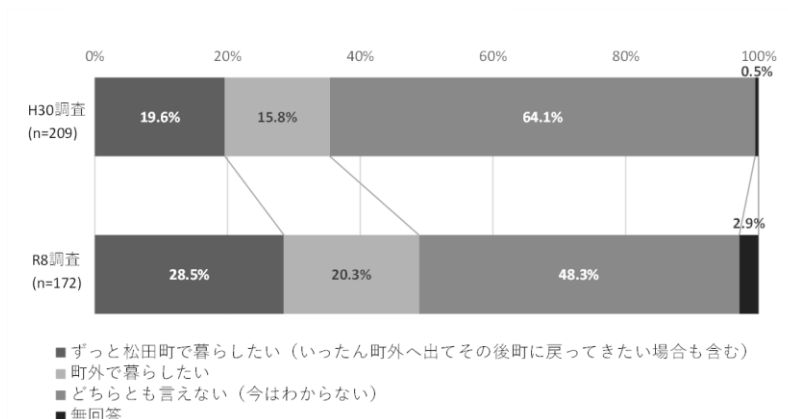
1位	買い物できる店が無い (日用品を歩いて買いに行けない)	…69件
2位	遊び場が少ない (皆で集まって遊べる場所が無い)	…19件
3位	商業・娯楽施設が無い (アミューズメント施設が無い)	…11件

（定住意向）

今後も松田町に住み続けたい人は約3割、町外で暮らしたい人は約2割となっています。

今後も住み続けたいと思えるまちであるためには、徒歩で買い物に行ける環境や、店舗の充実など、買い物の利便性を向上させることが必要です。

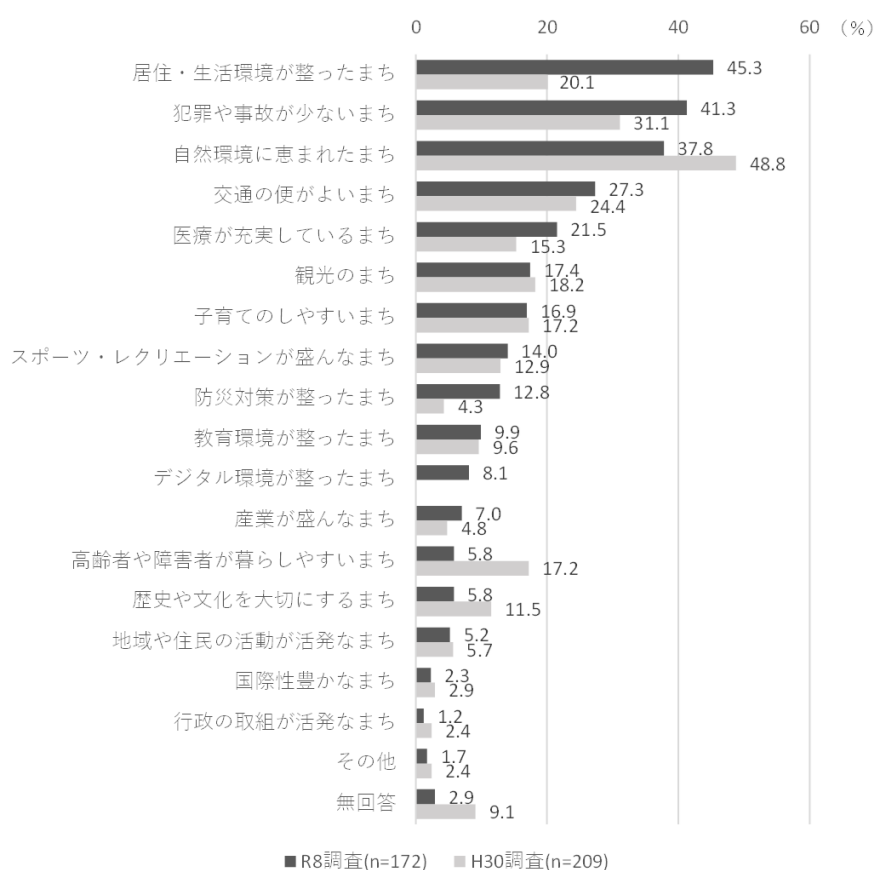
■定住意向（中学生）



（大人になっても住みたいと思える町の姿）

「居住・生活環境が整ったまち」が最も多く、次いで「犯罪や事故が少ないまち」、「自然環境に恵まれたまち」となっています。

H30 調査と比較すると「居住・生活環境が整ったまち」は25.2ポイントと大幅に増加しており、順位も3つ上昇していることから、将来住み続けるという視点において、日常生活における利便性の良さが重要視される傾向が強まっていることがわかります。



(2) ワークショップ結果

「中学生から見た松田町の印象」や、「将来どのようなまちになってほしいか」という点について把握することを目的とし、令和8年5月13日に、松田町立松田中学校3年生によるワークショップを実施しました。

アイデア出しと整理を生徒たちが自らできるよう、模造紙と付箋紙を使用し、「思わず住みたくなる！8年後の松田町」をテーマに、松田町が目指すべき姿のキャッチフレーズを検討するグループワークを行いました。

【各班の考えたキャッチフレーズ】

○A組

- ・START UP ～a town full of fun, in harmony with nature. 自然と共に楽しさ溢れる町を。
- ・自然豊かで美しい環境をみんなで守り、住みやすいまちへ
- ・自然と笑顔に松田町
- ・色どり豊かな自然と共に進むにぎやかな町
- ・想いや仲間とのつながりで未来をカタチにできる松田町

○B組

- ・笑顔あふれる明るいふるさと
- ・活気あふれる笑みの町
- ・交通が発展していて挑戦がしやすい松田町
- ・自然をけずり、ジンコウ（人口・人工）増やす Matsuda town.
- ・みんなが輝く 元気町

【カテゴリ別の主な単語】

カテゴリ		単語
健康・福祉		健康、子育て
教育・文化		子供、高校、教育、郷土愛、祭
経済・産業		栄える、おいしい、お店、飯
暮らし・基盤		生活、交通、便利、施設、道路、駅、都会、暮らしやすい、住みやすい、過ごしやすい、
自然・環境		安心、安全、交通安全、治安がいい、のどか、きれい、キレイ、美しい、公園、自然、山、山けずる、緑、桜、川、風、虫、生き物、環境、景色
協働		交流、協力、人とのつながり、コミュニケーション
全体	人・つながり	人、みんな、自分、仲間、友、老若男女、十人十色、人口、ともに、仲良し、アットホーム、つながる、つながり、愛される、あいさつ
	優しさ	心、思いやり、気遣い、優しい、あたたかい、幸せ、信じる、平和、思い出
	活発さ	笑顔、笑み、おもしろい、明るい、にぎやか、楽しい、わくわく、活発な、活気、元気、あふれる、にぎわう、全力、fun!!、enjoy!
	未来・輝き	明日、新しい、未来、希望、START、レベルUP、進化、進む、カタチ、光、輝く、キラキラ、豊か、いろとりどり、あざやか
	まち	ふるさと、故郷、まち、松田町、松田推し、We love Matsuda

3. 団体アンケート

松田町第7次総合計画は、町民との協働・連携協力のまちづくりを実現するための最上位計画として位置づけ、その政策を町民や団体と共有し、ともにまちづくりを推進するための計画としていくため、町内で積極的に活動しているまちづくり団体を対象として、活動の現状や課題、今後の活動意向・展望等を把握するためのアンケートを実施しました。

(1) 実施概要

調査時期	令和8年4月
主な調査項目	団体の概要 計画期間内における変化 活動団体の悩み・課題 今後の活動に向けた展望 課題解決のために必要な支援 施策の改善・新たなアイデア 町や地域の問題点 今後のまちづくりに関する取組・アイデア
調査対象団体	【健康・福祉】 松田町健康づくり普及員・母子保健推進員、食育ボランティアはるみ、民生委員児童委員協議会（松田地区）、社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会、サンライズキッズなのはな保育園、子育て支援センター、ファミリー・サポート松田、シニアクラブ松田、松田町シルバー人材センター、松田いきいき元気の会、グループホームみやまの里、セントケアホームあしがら、まこさんち松田、松田町身体障害者福祉協会、特定非営利法人 KOMNY すみれの家、コスモス学園松田センター 【教育・文化】 松田幼稚園、寄幼稚園、松田小学校、寄小学校、松田中学校、松幼会、松田小学校 PTA、寄小学校 PTA、松田中学校 PTA、青少年指導員会、松田町更生保護女性会、松田町保護司会、文化財保護委員会、大名行列保存会、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ松田ゆいスポーツクラブ 【経済・産業】 森林組合、松田町農業委員会、松田町鳥獣被害対策実施隊、商工振興会商工青年会、ハローワーク松田、一般社団法人松田町観光協会、寄地区振興協議会、株式会社 DASI、TUDOI 合同会社、有限会社みやまの里、宇津茂ロウバイ部会 【暮らし・基盤】 小田急電鉄株式会社、秦野駅、松田駅、富士急モビリティ株式会社 【自然・環境】

	環境美化推進委員、エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議、小田原市消防本部、松田町消防団、松田警察署、松田町交通指導隊、防犯ボランティア 【実現手段】 自治会、グローキアアップ株式会社 【包括連携協定事業者】 NPO法人 アシガラパートナーズ、株式会社コヤワタオフィス、株式会社分子生理化学研究所、三井住友海上火災保険株式会社、ALSOK 株式会社
--	--

(2) 主な調査結果

【健康・福祉】

(課題解決のために必要な支援について)

- ・ 児童委員活動への支援。
- ・ 新規のイベント等を実施するための予算確保。
- ・ 建物・施設の老朽化に対し、できる限り対応していきたいが、費用が掛かってしまう。補助金があると運営がスムーズになる。
- ・ 地域の高齢者居場所づくり活動団体ふれあい会「地域の茶の間」への助成支援。ふれあい会に助成している自治会負担軽減や、高齢者の活動体制となるのではないかな。
- ・ 会員数の増加について、町福祉課等と連携し、当会の周知及び勧誘を行っていただきたい。

(今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて)

- ・ 民生委員の欠員解消。
- ・ 地域の関係団体等と連携したイベントの実施を通じて、地域での知名度を上げる、地域に応援団をつくる取り組みを進めたい。
- ・ 夏の猛暑の中での草刈りや除草作業は高齢者にとって適正な就業環境とは言えない。高齢者が就業しやすい仕事を増やしていきたい。

(今後のまちづくりに関する取組・アイデア)

- ・ 生涯学習課や町登録の活動団体及び社協の福祉ボランティアも含めた一覧表の作成などの情報発信。
- ・ 若い世代（中高生も含めて）の意見も必要である。
- ・ 地域住民の方々だけでなく、町内で働く方々も含めた認知症への理解促進や、世代を超えた交流の機会が広がることが重要。

【教育・文化】

（課題解決のために必要な支援について）

- ・ I C T教育の質的向上のため、教諭一人一台の端末環境を整備し、より円滑な指導体制を構築していただきたい。
- ・ 所管課を超えた団体間の協力体制があると「子ども達のため」の活動が広がる。
- ・ 町の財産である大名行列（奴ぶり）を絶やすことなく次世代に継承しなければならない使命をもって活動する。
- ・ 演舞に携わる人材確保が難しいことから、多方面への情報発信をお願いしたい。
- ・ 施設面に関する活動環境の整備。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

- ・ 「地域とともにある学校づくり」の推進や I C Tの活用により、教育活動の充実を図る。
- ・ 松田町の人・事・物・場を活かし、松田町のスポーツコミュニティを現代の暮らしに合う形で発展させたい。

（今後のまちづくりに関する取組・アイデア）

- ・ 町の防災、ごみ対策、S D G sの取組、町議会の仕組みなどについて、行政担当者等がゲストティーチャーとして直接語りかける機会を設けていただきたい。それにより、子ども達がより松田町を身近に感じ、郷土愛を育むことにつながる。
- ・ 様々な枠にとらわれない協力体制の確立が必要。
- ・ 地域に新たな雇用を生み出す取組として、山の活用、河原を活用したキャンプ・水遊び・カフェ・ランニング施設の整備、駅前開発における住居の一部をホテル化して観光客や合宿を誘致する仕組みづくり、さらに歩行者天国の復活による月1回の「まつだ市（仮称）」の開催など、地域資源を活かした魅力創出を進めたい。

【経済・産業】

（課題解決のために必要な支援について）

- ・ 地理的に不利な農地のほ場整備や担い手誘致等に対する予算・人材の確保をお願いしたい。
- ・ 事業者には直接影響のある支援をお願いしたい。
- ・ D X化に向けたシステム導入。補助、支援。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

- ・ 他団体との連携強化は必要。
- ・ 利き酒バルは今後地域活性のきっかけになると予想している。
- ・ 地域資源（鹿、イノシシなど）を活用した訪日外国人向けジビエツアーの造成…松田町猟友会と協働。

（今後のまちづくりに関する取組・アイデア）

- ・ 若い世代（移住者等）の駆除活動に対する理解醸成を促すための町の広報等で周知。
- ・ 新松田駅前開発と共に町外から人を呼び込む。観光事業などを行政と考えていきたい。
- ・ 町主催のマルシェや朝市などのイベントがあるといい。

【暮らし・基盤】

（課題解決のために必要な支援について）

- ・ バスの運転士の採用策の支援。
- ・ 路線バスの利用促進、利用者増につながる支援。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

- ・ バスの運転士の採用強化による輸送力増強。
- ・ バスの利用客増による活動拡大を目指したい。

【自然・環境】

（課題解決のために必要な支援について）

- ・ 消防団員の確保支援。
- ・ 主要交差点への防犯カメラの設置。
- ・ 学校 PTA 等の学校関係者との連携強化による、登下校時の見守り強化。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

- ・ 自治会非加入者の増加等により、町のルールを知る機会が無い方による違反ごみの増加が懸念される。地域に応じた啓発機会を設けるなどの、きめ細やかな対策が必要。
- ・ 築 53 年と経年劣化の著しい松田分署の再整備に着手していく。
- ・ 著しく増加する救急出動件数への対応体制確保のため、日勤救急隊を消防本部救急課に配置し、全管区を出動エリアとし、より効果的かつ効率的な運用方法について検討を進める。
- ・ 犯罪抑止に向けた広報啓発活動の拡大。

（今後のまちづくりに関する取組・アイデア）

- ・ 実態のあるエネルギー基本データの作成を支援したい。
- ・ 昼間子供の帰宅時に行っている広報に、事故防止の注意喚起を入れて欲しい。

【実現手段】

（課題解決のために必要な支援について）

- ・ 地域における IT 人材確保への支援。
- ・ 活動内容に応じたメリハリのある助成金。予算の増加。

（今後の活動の展望やまちづくりに期待することについて）

- ・ 各種行事活動は拡大や現状維持が望ましいが、減少が懸念される。自治会だけでの運営が難しいので、団体と連携して行事を拡充したい。
- ・ 子育て世帯における子供や親御さんが自治会行事に参加できるような支援。
- ・ 自治会活動に関心を持ち、参加してもらえる様な施策

（今後のまちづくりに関する取組・アイデア）

- ・ フレイル・身体測定結果の周知のみならず、測定値が標準値以下の方について、日常生活で容易に取り組むことができる身体機能の改善方法の教示。
- ・ デジタルツールの活用や、身体機能の向上改善者への褒賞品の贈呈制度。

4. タウンミーティング

(1) 実施概要

令和7年6月から8月にかけて、松田町内の全自治会を対象に、松田町で生活している中での困りごとや将来への想いについて、より多くの町民の具体的な意見を直接把握することを目的とし、実施しました。

(2) 主な調査結果

〈地域での困りごと〉

- ・「道路の整備や渋滞の解消」「買い物の不便さ」「防災の必要性」はほぼ全ての地域において話題に上がりました。
- ・自治会に関する意見については、「自治会への入会者が減少している」「新しく移住してきた人は入らない」「脱退する人が増加している」「役員の高齢化が進んでいる」といった内容がほとんどを占めることから、自治会の存続が危ぶまれているということがわかります。
- ・ゴミに関する意見も多く、「自治会に加入していない人の誤ったゴミの出し方」や、「外部の方の不法投棄」など、自治会では対応しきれない問題が多いことがわかります。
- ・松田地区と寄地区ともに空き家に関する意見が多く、「手入れの必要性」や「活用を望む声」が見受けられます。
- ・少子高齢化を心配する声も多く、特に寄地区においてはすべての地域にて話題に上がりました。

〈将来も住み続けたいと思えるまちにするには〉

- ・子どもがのびのびと過ごせて、子育てがしやすく、高齢者も安心して過ごせるまちが望まれています。
- ・様々な人と人のつながり（近所・高齢者と若い世代・松田地区と寄地区・新旧住民等）を重要視する意見が多く、こうしたコミュニケーションを取ることで、孤立や伝統の途絶えを防ぎ、安全で暮らしやすいまちにしていけるという考えが見受けられます。
- ・地域の観光資源や魅力として「自然（松田山・川・滝 等）・お祭りなどが挙げられており、これらの良さを広めるための、より効果的なPRが求められています。
- ・過度な開発は望まれておらず、今の松田らしさを残した駅前の開発や買い物の利便性の向上が求められています。
- ・徒歩での移動だけでは生活が難しいことから、車を持たない人でも不便なく生活を送れるような公共交通の整備が求められています。

第4章 まちづくりの戦略課題

前章までに整理してきた「社会情勢」「町民の期待」を踏まえ、現状におけるまちづくりの課題を3つまちづくりの戦略課題として整理しました。

課題1：人と人とのつながりを育む「支え合いの意識」が必要

まちづくりは、そのまちに関わる全ての人々が自分事として捉え、主体的に参加することで実現します。行政が全てのサービスを担うものであるという考えから脱却し、自分のできる範囲から人との関わりを増やしたり、活動に参加したりするなど、ともに支え合う意識を育む必要があります。

社会情勢	○人口減少及び少子高齢化に伴い、町内の様々な団体の維持が困難になっています。 ○災害の頻発・激甚化が進んでおり、日頃からの備えや一人一人の意識の強化が求められています。 ○価値観やライフスタイルの多様化により、行政のみでは対応しきれないほど町民のニーズは多岐に渡っています。
町民の期待	○地域活動における若者の積極的な参加が求められています。 ○困ったときにお互い助け合えるよう、日頃から地域内での関係を築くことが求められています。

課題2：まちの魅力や可能性を最大限に活かした「稼ぐ力」が必要

人口減少や少子高齢化の進行により、町の税収の減少が予想される中、暮らしやすいまちを保つためには、地域資源を活かして町内外から人やお金を呼び込み、新たな収入を生み出す「稼ぐ力」を高める必要があります。

社会情勢	○人口減少及び少子高齢化が進むことで、町の税収の減少が見込まれています。 ○社会資本の老朽化に伴う整備にあたり、費用負担の増大が懸念されています。
町民の期待	○山や川、特産品などを活用した新たな魅力の醸成が求められています。 ○既存の祭りや新たなイベントにおいて、より多くの人を呼び込み、にぎわいを生むため、情報発信やPRの工夫が求められています。 ○企業誘致による賑わいや税収の増加、町内における雇用の創出が求められています。

課題３：多様な人々の生活を支える「暮らしやすさ」が必要

暮らしやすいまちを保つことは、今暮らす人々の生活水準の向上を図るとともに、人口の増加につながることを期待できます。人口減少社会においても選ばれるまちであり続けるため、暮らしやすさの維持・向上が必要です。

社会情勢	○デジタル化を取り入れることで、行政をはじめとした様々なサービスの利便性の向上が期待できます。 ○社会資本の老朽化の進行が懸念されています。 ○カーボンニュートラルを目指し、環境に優しいまちづくりが求められています。
町民の期待	○暮らしやすさの大幅な向上に向けて駅周辺整備には大きな期待がかかっており、早期実現が求められています。 ○買い物の利便性の向上や地域内における公共交通の利便性の向上が求められています。 ○中学生が大人になっても住み続けたいと思えるまちとして、居住・生活環境が整ったまちが求められています。